

株式会社一・四・一 賞金をMELONに寄附

7月26日(月) 株式会社一・四・一より5万円のご寄附をいただきました。株式会社一・四・一は、今後のショッピングセンター(以下SCと記載)のあり方や社会的役割を示唆するSCを顕彰する「日本SC大賞2004」において銀賞を受賞され、この賞金をMELONにご寄附くださいました。株式会社一・四・一は2001年に実施した「MELON環境大賞」において奨励賞を受賞されており、その時のご縁が今回のご寄附につながりました。ご担当の施設管理部・坂村課長は次のようにコメントされています。

「141ビルの運営に関して各方面でご評価をいただき大変に光栄です。環境にやさしいビルづくりを目指しており、一例として廃棄物に関しても現在は20種類を分別し、少しずつではありますがその成果が着実に見えてきたところです。今後とも地域の皆さ

まと共生を図り、快適で安全なビルづくりに邁進したいと思います。」

今後もこういったつながりが広がっていけば良いと思います。ありがとうございました!



中村営業本部長より寄付金を受け取る齋藤事務局長



眠りの儀式としての絵本

私たちのまわりを見わたしたただけでも、子どもたちの夜更かしはたしかに増えていませんか。昼間と見まちがうほどの明るさの24時間営業の店やガソリンスタンド。携帯電話はもう時間や生活のしきりを乗り越えてかかってくる。その大人の生活が気づかないストレスとなって子どもたちに影響を及ぼしていることはないでしょうか。夜眠らない子どもたちに体調の異変などが疑われています(岩波ブックレット No.621「眠りを奪われた子どもたち」神山 潤を読んでみてください)。では、子どもたちをどうやって床につかせたらいいのでしょうか。やはり、本を読んであげることではないでしょうか。そして「この本を読んだら寝る」ことを約束させるのです。



ジョン・バーニンガム作「旅するベッド」(長田弘訳)を読んでみましょう。ベッドが小さくなったので、ジョージはお父さんとベッドを買いに行きました。古道具屋さんで見つけたベッドは「じゆうに旅ができるベッド」なのだそうです。はたして、ジョージがまぼうの言葉をとなえると空を飛ぶことができたのです。ところが、夏休みに遠くへ出かけているあいだに、その古いベッドは捨てられてしまうのです。

古い家具や食器などを何年も何世代も使いつづけること、それは子どもたちの想像の世界をたてに深く広げていくことができます。ひととひとのつながりや命の歴史にまでたどり着くこともあるでしょう。「もの」と「ひと」とのつながりを考えていくことは、環境に対する取り組みをもっともっとすてきなもの変えていくかもしれません。